



災害ボランティアチームDARSTの皆さん

災害ボランティアセンターは、災害が発生した際に設置される、ボラ

災害ボランティアセンター 運営訓練を実施！

今年社協では、実際の活動を想定した「災害ボランティアセンター運営訓練」を災害ボランティアチームDARST(ダースト)の皆さんを講師に迎え2回実施しました。実際に被災地の災害ボランティアセンターで活動した大井町社会福祉協議会小川宏行氏の事例も参考に、協会のイメージを確認しました。それぞれ約30名が、主な役割を想定し、シミュレーションを行いました。初めて経験する参加者も多く、積極的な質問や改善点が多く上がり、実際の立ち上げの際に役立つ有意義な訓練となりました。

- 1 気持ちよく活動するために挨拶や自己紹介、言葉づかいに気を付けましょう
- 2 活動の場所が地域の方の生活の場ということを忘れないようにしましょう
- 3 被災された方や家屋などの写真を

ボランティアの皆さんへ お願いしていること

被災後、社協職員などが被害の程度や場所など、状況確認のため現地調査に伺います。ぜひ具体的な困りごとなど、復旧活動のための情報をお聞かせください。また、ボランティアセンターが立ち上がりましたら、ボランティアの依頼申込みや活動協力のお願いをチラシやネットなどでお知らせします。

地域の皆さんの声が 一番の情報源

一日も早い復旧のために
災害時のボランティア活動について

コロナ禍においては、市外・県外からのボランティアの受け入れが難しくなることも想定され、身近な地域での助け合いがより重要になってきます。速やかな復旧活動を進めるために、ボランティア活動をする側、受け入れる側ともに知っていただきたいポイントについてお伝えします。ぜひご協力をお願いいたします。

- 4 食事・交通費などはボランティア本人が負担しましょう
- 無断でインターネット上にあげるのはやめましょう



運営訓練での受付の様子

【お願い】ボランティア活動中、地域の方のトイレなどを使わせていただくことがあります

7月20日(月) 講義『豪雨災害と避難』

昨年の台風19号(令和元年)で千曲川が決壊したとき22%の人が「被害に遭うとは思わなかった」「近所の人も避難してなかった」と話し、避難をしなかったそうです。「自分の命は自ら守る!」という意識が大切です!



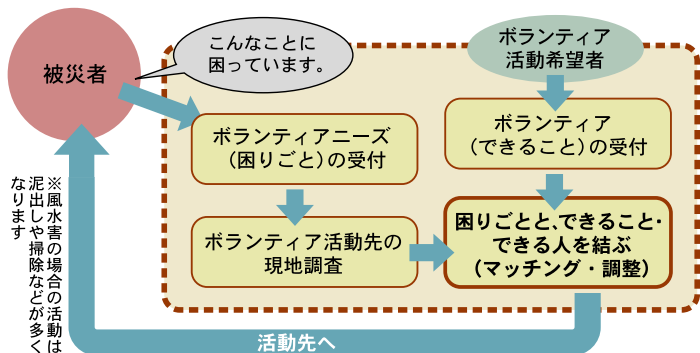
防災塾・だるま
田中栄治さん

災害に できることを できるときに 備える

写真はイメージです

～災害研修会【豪雨災害に備える】報告～

昨年の台風19号により、市内でも大きな被害がありました。社会福祉協議会では、今後発生する災害に備え、研修会を開催しました。



歯科医師
あがりえ ふみか
東江文香さん

熊本地震の震災関連死のうち、3割近くの方が肺炎で亡くなっています。その理由は「慣れない避難所生活での食事の偏りや、ストレスによる抵抗力の低下などと共に、水不足で十分な口腔ケアができず、誤嚥性肺炎の発生につながった可能性が

7月28日(火) 講義『災害時の健康管理』

- ハザードマップを普段から確認しておきましょう。
- 避難場所は指定された場所の他にも考えておきましょう。(自宅の高いところ、ホテル・親戚・知人の家、車中など)
- 非常持ち出し袋を準備しましょう。(マスクや消毒液、ビニール手袋などコロナ対策を追加)



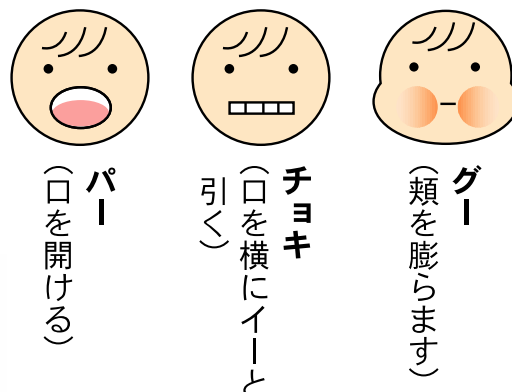
南足柄市防災ハザードマップ

るから」とのことでした。口腔ケアは全身の健康にもとても大切です!

ポイント

- 歯ブラシがなくても数回のうがいや、濡らしたハンカチやガーゼで歯の表面を拭くだけでも効果的。
- お口と足の「じゃんけん」で、全身の健康を心がけましょう。

唾液の分泌が促がされ、
ストレスや緊張感の緩和に!



エコミークラス
症候群の予防に!



- 災害研修会のお知らせ
～地震に備える～
- 11月24日(火)
13時30分から15時30分
『首都直下地震への備え』
 - 11月30日(月)
13時30分から16時30分
『災害ボランティアセンター運営訓練』
 - 12月1日(火)
13時30分から15時30分
『災害時高齢者生活支援講習・救急法』
- 場所: りんどう会館大会議室
対象: 関心のある方どなたでも
定員: 約25〜30名(定員を超えた場合は抽選となります)
申込締切11月17日(火)手話通訳あり
申込み・問合せ: 社協ボランティアセンター 72-2299

写真はイメージです